

事務事業評価

平成 23 年度

担当グループ 学校教育グループ

基本事項	事務事業名	豊後高田市・島原市兄弟校児童会交流事業				整理番号	2316	
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	○あり ●なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	予算科目	10 款 1 項 2 目	◎継続 ○新規		
		節	第2節 義務教育の充実	事業区分	その他			
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	豊後高田市・島原市の兄弟都市の契りを更に深め、両市小学生の活力を生む豊かな児童会交流事業を継続的に行い、21世紀の郷土を担う青少年の育成を目指し、両市の児童会が本年度(平成23年度)は豊後高田市児童会を本市で受入、再来年度(平成25年度)は本市児童会が豊後高田市へ訪問を予定しており、隔年ごとに相互の交流を深めている。				計画期間	始期	平成 11 年から
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	島原市内の第5・6学年の児童に本交流事業の参加を促し、豊後高田市の児童会の子どもたちと兄弟校・交流校での活動やホームステイ等を通して、相互の交流を深めることを目指している。				終期	平成	年まで
	目的達成のための手段・方法							
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	21年度	22年度	23年度	
		①参加保護者の本事業についての感想を読めると、「郷土の伝統や風習を知ることができて良かった」、「兄弟都市について知ることができた」など本事業が意義があると分かった。		目標				
	活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	②		実績				
		達成率	%					
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①隔年ごとに、豊後高田市・島原市の児童会交流を行い、双方が訪問、受入を行う。訪問参観者は受入参加者宅へホームステイをし、兄弟校・交流校での平和集会や両市の紹介、ふれあい等をおして交流活動を行う。		目標					
	②		実績					
事業費等の推移	年度		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)		568	0	800	0	600	0
	財源内訳	国県支出金						
		地方債						
		その他						
	一般財源		568	0	800	0	600	0
②従事職員給与費 b1×b2		861	0	859	0	868	0	
従事職員数(人) b1		0.12		0.12		0.12		
職員平均人件費 b2		7,179	7,153	7,162	7,168	7,236	7,277	
事業費合計 ① + ②		1,429	0	1,659	0	1,468	0	

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的 妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 豊後高田市と本市の兄弟都市締結20周年を記念して「大人だけの交流でなく子どもたちの交流も」という話から本交流が続いており10回を経過している。知らない人と交流し他人の家に泊まるという活動を通して、人の優しさや家族の大切さを体験する良い機会である。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 本事業は小学校の5・6年生を対象とした交流事業であり、校長をはじめ引率教員、豊後高田市教育委員会、保護者、市PTA役員等が関わっており、本市教育委員会が事業を推進することが適当である。	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 D=適切ではない 平成21年度から交流校が新たに加わり、参加学校数、児童数ともに増えている。そのため、補助金の若干の増額をお願いしたい。	B
有効性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 校長、保護者など関係者の感想から初期の目的が達成されていると考える。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 平成11年度から17年度までは毎年相互交流を続けてきた。予算面や運営・準備等の問題で、平成19年度から隔年の交流事業となっており、事業の検討がなされた結果が隔年交流であると考えている。	A
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 訪問をする際、参加児童から参加費は徴収していない。受入の際、受け入れ家庭に食費代等として謝金を出している。このことが、参加希望者への負担をなくし交流の促進を図っていると考える。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 兄弟校に加え、新市合併に伴い交流校が新たに加わっており参加校は増えている。しかし、予算は合併前の予算しか計上されておらず、物品等を安価に押さえながら切り詰めて支出し何とか維持している。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 豊後高田市教育委員会と綿密な連絡を取り合い交流を深めることができています。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 本内容は本事業の評価には適さないと考えている。	
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要			A
			判定評点平均 A=3、B=2、C=1、D=0として換算 2.89

◎総合評価

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由 本事業は豊後高田市との兄弟都市に伴う交流事業であり、概ね順調に交流ができていると判断している。
	(実施上の課題等) 今後の課題及び改善策、見直しの状況 ・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。	

【2次評価】

総合判定	A 継続実施(特段の見直しは行わない)
備考	

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△ 600 (千円)